

## 2025年度フィールドスタディ・地域活性化論実施報告(ホームページ掲載)

科目名	フィールドスタディ B	教員名	中澤高志
実習先	長野県上田市		
実習期間	2026年2月3日(火)~4日(水)		
テーマ	自らなりわいを創る		

### 目的(実習のねらい):

「田舎暮らしは魅力的だが、仕事はどうする?」と考えるとき、どうしても「雇われて働く」という選択肢にとらわれがちである。しかし、地方都市でも、雇われるのではなく、自らなりわいを創り出すことで、日々自分らしく暮らしている人々が現れ始めている。今回のフィールドスタディでは、行政の取り組みに加え、創業者の方々へのインタビュー調査を試み、フィールドワークの面白さを味わってもらうことを目的とする。創業者たちのバイタリティ溢れる生きざまに接することで、オルタナティブな生活の可能性について考えてみたい。

## 実習報告:

2月3日(火)

上田駅の改札口に集合、城下町らしいクラシックのある道を通って上田市役所に向かう。上田市商工観光部の方に、上田市の産業や創業支援の概要などについて説明してもらおう。今年は新しい試みで、学生に上田市の施策に関するプレゼンテーションをしてもらった。テーマは「上田市のふるさと納税を増やすためにはどうしたらいいか？」

単価を増やす仕組みや、上田市を訪れての参加型のギフトを開発することなどが提案された。少しは上田市役所の参考になっただろうか？



各自昼食。午後からは、趣のある上田電鉄に乗り、インターネット古本販売の大手、バリューブックスの上田原倉庫に向かう。まずは近くのバリューブックスのビジネスや取り組みを説明してもらい、続いて倉庫を見学。バリューブックスには毎日大量の古本が届く。それをどうやって値付けし、仕分け、発送するのか？現場を見せてもらおうと、少し仕組みがわかってくる。

バリューブックスでも、学生のプレゼンテーションをした。バリューブックスのビジネスに大学生を取り組むために、大学のテキストの買取や販売をするスキームを提案。確かに大学のテキストは高いし、授業が終わったら正直二度と読まないものも多いだろう・・・

2月4日(水)

全体を3グループに分け、インタビュー調査を実施した。インタビューの相手は、いずれも学生が選び、アポイントを取った。例年は午前1件、午後1件のところ、今年は3件やってもらったので大変だったことだろう。

インタビュー後は、上田電鉄で別所温泉に移動し、まとめの会を開催した。インタビューやフィールドスタディの感想をみんなとシェアした。

**成果:**

今年のアポ取りが結構大変で、電話営業みたいになってしまったが、これもいい経験だろう。地方都市でなりわい作りをしている人たちと触れることで、大企業に入ってサラリーマン生活をするのとは違う生き方があることが分かったと思う。別にそういう道に進む必要はないが、追い詰められてしまったと感じたときにこそ、オルタナティブな生き方を思い出してほしい。

以上